様式第４号（第１５条関係）

会　　議　　録

１　附属機関等の会議の名称
　　令和４年度第２回美里町生活支援体制整備協議会

２　開催日時　令和４年９月２９日（木）午前１０時から正午まで

３　開催場所　美里町駅東地域交流センター　大会議室

４　会議に出席した者
（１）委員　小野俊次会長、渡邊かおり副会長、角田フミコ委員、
　　佐々木義夫委員、柴垣信二委員、庄司哲広委員、小野祐哉委員

（２）事務局　美里町長寿支援課　横山太一
　　美里町社会福祉協議会　山口保広、永沼威雄、高橋ゆかり
　　青木真理

５　議題
（１）　開　　会
（２）　会議録署名委員の選出
（３）　報　　告
①児童による高齢者生活支援体験事業「くらしのてつだい隊」について
②いきいき百歳体操について
③令和４年度くらしのサポーター養成講座について
④令和４年度生活支援体制整備協議会啓発事業について
⑤「ちいきみまもりたい」について
⑥生活支援コーディネーターの活動について
（４）　協議事項
①見守りあいの推進について

６　会議の公開・非公開の別
　　公開

７　非公開の理由

８　傍聴人の人数
　　０人

９　会議の概要
（１）会議録署名委員の選出　　渡邊かおり副会長、庄司哲広委員

（２）意見等の概要
○事務局（高橋）　報告（１）児童による高齢者生活支援体験事業「暮らしの手伝い隊」について資料に基づき説明。ご意見・ご質問ありますか。
○渡邊副会長　参加した子どもは４名ですか。
○事務局（高橋）　４名です。
○渡邊副会長　対象の高齢者が４４名ということなんですけれども、４名の子どもは、１枚ずつ高齢者への手紙を書いてコピーしたのですか。
○事務局（高橋）　そうです。現在、配食サービスを利用している方が４４名です。子どもの参加者は少なかったですが、中垉小学校以外は各小学校から参加していただくことができました。
○佐々木委員　４４名の利用者は、美里町全体で４４名ですか。
○事務局（高橋）　美里町全体で、今現在利用している利用者さんが４４名です。
○小野俊会長　４４名のうち、夫婦で利用しているところもありますか。
○事務局（高橋）　はい、夫婦で利用している人もいます。夫婦で利用している世帯数が２～３世帯あります。
○佐々木委員　　週１回の配達ですか。
○事務局（高橋）　週２回です。小牛田地域が火曜日と木曜日、南郷地域が水曜日と金曜日の週２回、お昼に届けています。
○小野俊会長　小学生の子どもが応募してきましたか。
○事務局（高橋）　はい。自分で参加したいという子や、親に勧められて参加した子もいます。
○小野俊会長　もう少し多いといいですね。
○事務局（高橋）　そうですね。

○佐々木委員　こういう活動を将来､地域全体に広げていくという考えですか。
○事務局（高橋）　子どもたちに体験してもらい、気づいてもらうことを考えています。地域の高齢者の方と関わる機会が、今はなかなか無いということもあって、つながる機会の一つとして企画しています。本来であれば、高齢者の自宅を訪問して、お風呂掃除とか掃除機かけ等を手伝うことで、高齢者の生活に触れることを目的とはしていたのですが、コロナの影響で内容を変えています。
○小野俊会長　素晴らしいことだし、例えば宅配ではなくて、行政区で一人暮らしのお宅に子どもが来てもらえば嬉しいだろうなと思う。このような活動を広げていくことはいいかもしれないですね。これまでよりも多くしてほしいです。
○事務局（高橋）　そうですね。
○小野俊会長　高齢者は嬉しいと思います。自分もこの年になるとよくわかるので。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。今の御意見も参考に、来年の事業を企画したいと思います。他に何かありますか。
（なしの声）
○事務局（高橋）報告（２）「いきいき百歳体操」について資料に基づき説明。ご意見・ご質問ありますか。
○小野俊会長　なかなか実施するのも大変ですね。
○事務局（高橋）　そうですね。４月から社協にいきいき百歳体操専属の職員が１人いて一緒に取り組んでいます。役割分担しながら地域を訪問しています。
○小野俊会長　ある程度のやり方がわかれば、行政区や自治会で百歳体操をやれるということですね。
○事務局（高橋）　そうですね。最初の立ち上げの部分をバックアップさせていただいて、あとは地域の方々が主体で、活動に取り組んでいただいております。
○小野俊会長　やはり女性が多いようですね。
○事務局（高橋）　そうですね。女性の方が多いです。
○事務局（高橋）報告（３）令和４年度「暮らしのサポーター養成講座」について資料に基づき説明。ご意見・ご質問ありますか。
○小野俊会長　受講者は２８名ですか。
○事務局（高橋）　２８名です。
○小野俊会長　女性が多いですか。
○事務局（高橋）　女性が多いです。男性も何人かいます。
○角田委員　女性の方々の年代はどうですか。
○事務局（高橋）　年代は、６０代から７０代が多いと思います。
○小野俊会長　平日だから、仕事してる人は参加が難しいんですよね。
○事務局（高橋）　初めての方の申込みも多くて、半数くらいは初めての方が

申し込んでいただいております。
○角田委員　どういう方が受けているのか分からないので、できれば誰が講座を受けたという情報は欲しいです。講座の後に行政区に帰ってきて、何か活動しているのなら良いけれど、活動が見えてこないこともあります。
○事務局（高橋）　分かりました。
○角田委員　そうすると、何かイベントのときや人材が必要なときに、その方にお声がけして、その方に参加していただけるといいなと思ったので、そういう意欲のある人は知りたい。そうでなくとも地域は後継者不足・人員不足で悩んでいるので。
○小野俊会長　名簿があるだろうから、個人情報のこともあるだろうけど、こういう人が受けてるよということだけでも教えてもらえると助かります。
○事務局（高橋）　分かりました。
○事務局（永沼）　基本的に、暮らしのサポーターの方々は社会福祉協議会のボランティアセンターにも登録しませんかという形でやるので、そこで行政区の役員さんに受講したことを情報提供しても良いか確認をとって、良い方は行政区にお知らせをし、地域で活躍したい方もつないでいくようにしていきたいと思います。
○角田委員　基盤は地域だと思うので、地域の上に社協があるという形で活動していきたいと思っています。
○事務局（高橋）　分かりました。ありがとうございます。事業所では、こういった取組はどうですかね。
○佐々木委員　高齢者が増えてきたときに、総合事業で対応せざるを得ないという事態になってくると思うんですよね。そのときに具体的にどういう対応があるのかなと考えたときに、地域の事業所でボランティアが働けるといいと思います。総合事業について、事業所間の話し合いも必要なのかなと思います。
　高額のサービスを利用できる方ばかりではないと思います。元気なうちは自分の力でやっていきたいと思っていると思います。ちょっとしたサポートをいただければ暮らしていけるはずなので、それを各介護事業所の所で担っていくという方法も検討していけるといいと思います。
○事務局（高橋）　横山さんどうですか。
○事務局（横山）　介護事業所はどこも人材や資格を持った人が不足しています。国は、住民のうち研修を受けた方が、簡単な家事などを支援できるような仕組みを、各市町村で作っていってくださいという状況になっています。
　佐々木委員が言ってくださったとおり、この養成講座に来てくれる方とも話しながら、もし介護事業所とも一緒にできることがあれば、高齢者の方のためになるのかなと思っています。
○小野俊会長　介護事業所だけの研修会はやっているよね。事業所同士の話し合いというのはないんですか。
○事務局（横山）　そうですね。研修会はやっております。

○佐々木委員　事業所の決定権を持った人たちや、ある程度自分の法人を動かせる人たちが集まって、じゃあやりましょうねとならないといけない。管理者の人は、決定権を持っている人はいいんでしょうけども、従業員として持っていない立場の人もいるはずなので､そういう人たちが話をするだけでは、前に進まないと思います。一番上の意思決定のところで、決定権をもった人が集まって話し合いするというのが必要かなと思います。
○小野俊会長　３０名の人が集まったときに、その３０名の人たちが、グループを作って、グループで活動するほうが、いいような気もしますね。
○事務局（高橋）　そうなんです。これまでも講座を開催してきたんですけれども、講座を開催して終わりになってしまっていました。そこから参加者の方々が、実際に地域の活動などにつなげられるような形に今回はできたらいいなと思い､講座の最終回のときに､相談会というものを設けておりました。
　参加された方々は、いろいろな希望があると思うので、例えば小野会長に言っていただいたような、グループを作りたいとなった場合は、バックアップさせていただきながら、活動立ち上げに向けて一緒に考えていきたいと思っておりましたし、介護事業所へのつなぎも検討したいと思います。
○佐々木委員　事業所は業務が忙しくてそんな場合じゃないというところも多分あると思うんですよね。年間の予定を決めて、受け入れてもらうのも一つの考えですね。
○事務局（高橋）　ご意見ありがとうございます。情報交換会の件についても相談しながら検討していきたいと思います。
○事務局（高橋）　報告（４）令和４年度生活支援態勢整備協議会啓発事業について資料に基づき説明。ご意見・ご質問ありますか。
（なしの声）
○事務局（高橋）　報告（５）「ちいきみまもりたい」について資料に基づき説明。ご意見・ご質問ありますか。
（なしの声）
○事務局（高橋）　報告（６）生活支援コーディネーターの活動について資料に基づき説明。ご意見・ご質問ありますか。
（なしの声）
○事務局（高橋）　続いて、協議事項に入りたいと思います。ここからは進行を小野会長にお願いします。
○小野俊会長　協議事項の見守りあいの推進について、事務局から説明をお願いします。
○事務局（高橋）　資料の１５ページに、前回の協議事項のまとめを記載しております。これまで、見守りについて協議を進めております。前回も見守りについて話合いをしました。そのなかで見守りの土台となる部分は、やはりつながる機会があること。その上に支え合いによる見守りや、仕組みによる見守りができているというところを、皆さんで共通理解できたかなと思っております。

この見守りのイメージ図では、くっきり分けてあるんですけれども、地域は混在しているので、こんなにきれいに分かれることはないかなと思っております。この中を行ったり来たりしているのが地域なんじゃないかなというふうに思っております。

そのなかで、前回は支え合いによる見守りの強みと弱みについて皆さんに御意見をいただきました。今回は皆さんのお手元に、「実施している見守り合いについて」という用紙があるかと思います。

みなさんが、現在実施している見守り合いがどういうものなのかを、ぜひ教えていただきたいと思っております。まず、個人として、自身が行っている見守り合いがどういうものなのか用紙の左側に書いていただきたいなと思います。用紙の右側は、所属する団体やお住まいの地域で、互助で実施している見守りはどういうものがあるかなということを書いていただきたいと思います。

【５分間の記入時間】

○事務局（高橋）　それでは、そろそろよろしいでしょうか。小野祐委員から発表お願いします。

○小野祐委員　個人的には特にしてないということが現状です。職場では、やはり介護の事業所ですので、利用者様のお宅の送迎のときですとか、訪問した際にいつもと違ったところが無いかどうかを、スタッフに確認してもらっています。

あと、もう一つは通勤のときですね。町外に住む職員もいるものですから、通勤してくる途中で、何かしら変化があればその場で対応したりします。

最近ではないですが、すこし前にあったのが、徘徊をしている高齢者の方を見かけて保護して、それから出勤しますという連絡をくれた職員がいました。町内や町外問わず、通勤時に何かしら変化があれば、それに対処する体勢というのは整っているような状況です。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。実際にあったのですね。

○小野祐委員　実際にそうですね。覚えています。

○小野祐委員　警察のほうに保護していただいて、それから出勤しますといった事例はありました。

○事務局（高橋）　そうですか。さすが職員さんですね。

○小野祐委員　他の人は気づかないで、そのまま通り過ぎていたということでした。

○事務局（高橋）　さすがプロですね。

○小野祐委員　気になる様子の人に見えたと言っていました。そういったなかで、見守りの一助になれば良いなと思います。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。庄子委員、お願いします。

○庄子委員　はい。個人的に見守りはやっていないです。イベントなどで、足

の悪い方や高齢者がいたら気にかけるようにはしています。具体的に言うと、どんと祭などをやっていますので、そうなると、結構足場が凍っていて危なかったりするので、そういうところは気をつけて見るようにしています。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。柴垣委員、お願いします。
○柴垣委員　個人的には、自宅から野球に行くときとか、車から見える範囲内の家の車があるとかないという見守りはしています。特に、自宅の２～３軒隣ぐらいは、今日も車があるな・ないなという形でしています。してますが、これがやっぱり変わらない。
○事務局（高橋）　気にかけているということですね。
○柴垣委員　あとは、地区の老人クラブ主催で週１回のグラウンドゴルフ大会をやっています。１０名から１５名くらい参加してますので、そのなかで気になる人の話はでてると思います。
　あと、私の個人の趣味で小牛田野球クラブというものを作っていまして、野球のときも体の調子などは随時報告できますので、見守りになってると思います。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。野球で週１回は皆さん顔を合わせているんですね。
○柴垣委員　そうですね。
○事務局（高橋）　結構頻回に顔合わせる機会があるんですね。やっぱり変化にも気づきやすいですか。
○柴垣委員　そうですね。試合と練習日合わせると週２回は顔を合わせています。
○小野俊会長　野球するのは、みんな元気いいからですね。
○柴垣委員　元気いいんでしょうね。走りますからね。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。渡邊副会長、お願いします。
○渡邊副会長　私も、意識して特別に見守りをしてる取組みはないんですけど、朝のゴミ出しとかしているのを見て、ああ来てるなと思ったりしています。
　自宅の近所の方はひとり暮らしだったんですけども、夜に私が帰るときに歩いていて、あれっと思ったり、夜にゴミ出ししている様子を見て認知症がすすんでいるのではと心配していましたが、施設に入居されたと聞いて安堵したりということがありました。
　あとは、御夫婦で二人で暮らしていた方が、旦那様が亡くなってしまって、その後ひとり暮らしになりました。東京から娘さんが戻ってきて同居されたので、すごく安心したこともあります。おひとりで暮らす方が身近にいたときに、自分がどういうふうにできるのかなって、こういう会にも参加させていただいて、自問自答しています。改めて、何となく気にかけているというところでしか取り組めないですけども、そういうことが、きっかけになればいいのかなと思ってやっています。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。気にかけるということが本当に大きなことだと思います。ＪＡとしてはどうですか。

○渡邊副会長　ＪＡとしては福祉事業ということで、どうしても業務の性質上、見守るところはあるんですけども、職員みんなで共有するということはやっています。そこの利用者さん、ちょっと最近こうだよとか、そういう情報を共有はしています。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。何か会議みたいなものをしていますか。
○渡邊副会長　日常会話のなかで共有します。日常がその話題で持ち切りになってるみたいな感じです。
○事務局（高橋）　事業所のなかで情報を共有するというのはとてもいいですね。ありがとうございます。小野会長お願いします。
○小野俊会長　私は行政区長をしていますが、月に１回広報を配布していて、そのときにお声がけをしたり、ひとり暮らしの人に、必ず月に１～２回は電話をしてやります。ある時、さっぱり電話に出なくて困ったなと思って行ってみたら、外出していました。
　うちの地区では避難訓練のときに安否確認があるんですよ。班長が１０軒も見るんじゃなくて、その１０軒を３軒ぐらいにして小さいグループを作っています。一番上の人が班長に連絡して本部に言うっていう形の安否確認をしている。それを利用して、３人ぐらいだったら隣近所で常に気にかけながら生活しましょうということを心がけてもらうようにしています。
　あとは、月に１回会館の掃除があって、そこに行っていろいろな人と話をすると、いろんな話題が出てくるんだよね。情報をキャッチしやすいなと思って、それは続けていったほうがいいかなと思っています。行政区にはグラウンドゴルフやコートがあるけども、集まると情報もかなり早めに入ってくるので、いいものだなと思っています。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。小野会長の不動堂６区で、隣近所の３軒を安否確認しようというのは、災害時も平時も、さり気なく見守りしようねということですか。
○小野俊会長　お互い気にかけて暮らしましょうよということです。そうすると隣の人が、３軒のなかにひとり暮らしの人がいると、ゴミ出しとかそれぞれしてくれています。それはもうだんだん定着しているようです。班長は毎年変わっても、そのグループはほとんど変わらないので、お互い気にかけて生活しましょうと声をかけています。それで何の問題もないです。
○事務局（高橋）　それはいいですね。ありがとうございます。佐々木委員お願いします。
○佐々木委員　私もよくよく考えてみると、気にかけてるというのをやってないですね。ただ、個人的には、自宅の前の家の人が高齢なんですけども、娘さんと二人暮らしになったんですね。前の家の人を気にかけて、天気が良ければ外にいるし、夜は茶の間に電気がついてないかついてるかの確認をしています。昼はどこかに行ってる可能性もあるだろうし、夜の茶の間に電気がついてるかついてないかを見ています。ついてないときは、理由がわからな

いときは訪問したり、前の家だけはやってますね。

所属する団体としては、「ちいきみまもりたい」としても、私が送迎やっています。送迎の人は異変を見ると分かるんですね。散歩をしてる人がいて認知症で徘徊してるようだとか、道路で休んでるとか、見ると大体分かるんです。あれっおかしいよねって。利用者を乗せてるときはすぐ帰って報告し、別の人が出ています。あとは、急を要するときや倒れてるときは、もうすぐその場で対応しています。以前、２件ぐらい対応しました。だから、送迎のときは、そういう考え方で送迎をするという形にしています。

小野会長も言ってましたけども、地域ではひとり暮らしの人は担当を決めて見守りするような仕組みになってます。民生委員さんも私のところにも回ってくる。そういう形で仕組みはできてるのかなと思っています。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。送迎時のところは、職員さんがプロなので気づくんですね。

○佐々木委員　ひとり暮らしの利用者は、話し合いのもとで、月・水・金曜日に利用するということになりました。そうすると、１日おきに来ていただくことができるので、安否が確認できるので安心です。何かあったときに、少なくとも２日後には容態を確認できています。あとは、二人暮らしの人も、利用者さんだけではなくて奥さんであったり、旦那さんであったりの様子を見るようにはしています。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。

○小野俊会長　専門家はすごいね。

○事務局（高橋）　そうですね。やっぱり視点が違う。普通に散歩してても、わからないじゃないですか。この人は徘徊してるなとか、普通に散歩してるっていうの。わかりますか。

○佐々木委員　わかります。実際に多いのが、靴履いてなかったりパジャマだったりね。下だけパジャマとかね。異様に歩くのが速かったり、すごい荷物を持って歩いていたり。「どこに行くんですか」と聞くと、「実家に帰るんだ」という人もいましたね。そういうケースのときは「一緒に乗せていくので乗ってください」と言って乗せて、警察署にそのままお送りしています。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。角田委員お願いします。

○角田委員　私は民生委員なので、個人的には高齢者のひとり暮らしを見守りますけども、それと同時に、自分が歩いてるときや自宅にいるとき、見える範囲を歩いてる様子や定期的に出かける方などを、いつも見るようにしています。今日も行ったなとか、今日帰ってきたなとか。あと電気がついたとか、庭先で何かいじってるなとか、木を切ってるなっていう確認をします。

それから、高齢でも車で外出する人もいるので、車がずっと止まったままじゃなくて、毎日ではないけど出かけていってるな、車庫に車がないなとか確認もします。

だから、特定の人を見守るというよりは、地域全体をいつも見ています。できるだけ、歩いている人や地域の人たちを確認して声かけします。家の前

や道路で「こんにちは、天気いいね」とかね。そういうふうに、特定の人を見守るというよりは、全体を見守る。そうすると防犯にもなる。地域を回ってる人がいっぱいいるので、そういうときは聞いたりしてます。そういうことも全部関わるので､地域全体を常に意識して歩くということを考えてます。

団体としては、民生委員なので訪問活動というのが活動の中にあるので、定期的に訪問するのと、それから地域活動に参加する。そうすると、ひとり暮らしの人とか、今まで来てないような人が来るので､「どなたですか」みたいな感じで顔見知りを増やす活動をしています。あともう一つ、一番大事なのが、地域の人々から、いかに情報をもらえるかなんです。だからそういう人をいっぱい作っておいて、何か隣近所で変わったことや「あのおばあちゃん変わったことあったら教えて」って常に聞くから、そのアピールを結構します。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。皆様のそれぞれの強みを教えてもらった気がします。事務局の皆さんにも聞いてもいいですか。

○事務局（山口）　隣近所を見渡したときに、たまたま気になる世帯が隣にあります。そのお宅は、ひとり暮らしの青年なんですね。３０歳にまだならないと思うんですけども。車が一台あって、朝に見て夜帰ったときに見るだけだと、ほとんど車も動かないし電気もつかない。カーテン閉めきりなものですから、やっぱり気になる世帯として意識はしていたんですね。無意識のうちに確認してる感じなんですけど、カーテンの隙間から少し漏れる明かりとか、車の状態を見ています。日中は私はいないので分からないですから、止めてるタイヤの位置まで確認するんですね。そうすると、位置がずれてると「あ、動いてた」ってなるんですね。そうやって自分に安心をもたせてるところもあります。

本当に応答もないし、そこのお宅にお客さんが来たときに、インターホンを押しても、反応がないですね。居留守使ってるような感じもあります。見守り合いになってはいないんですけれども、動いてるかどうかは確認していますね。

○角田委員　とても大事なことです。私も経験があるんですけど、引きこもっててカーテンも開けないような方で、車はいつも止まってるから買い物どうするんだろうと思っていた人がいます。その人は、夜中に行くんですね。夜中に移動して買い物も夜中にして、アルコールを買ってきて、御飯は食べないでアルコールを飲むという状況でした。結果的に、そのまま自宅の中で倒れて死んでしまったんですよ。

○事務局長（山口）　私も隣がゆえにね、何かあってからではと気になるから見ています。

○角田委員　とてもいいことです。日中、車が動いてないからどこにも行ってないんだろうなと思ってたら、近所の人に聞いたら夜中に買い物に行く。

○事務局長（山口）　この１０年間でその人に会ったのは１回ぐらいしかないです。話をしたことも、そのとき１回ぐらいです。そのときは、まだ１０代

だったはずなんですけどね。たまたま、その人が引越してきたときに挨拶に来たので初めて言葉を交わしたぐらいで、それ以降は何もない。

あと、班で回覧板が回ってますよね。そのときに、自宅にいるのにただ黙って置いていくんですよね。それってどうなのかなって、今度自治会の集まりがあったら言ってみようと思っているんですけども。１回インターホン押して、いなかったら置いていってもらってもいいんですけど、せめてそれぐらいしたほうが、反応あるかないか確認できると思います。私は、結局１回押していなかったら置くんですけども、直接渡すようにしてるんです。そして、黙って置いてきたら、やっぱり次の日に見にいきますもんね。回覧板が回収されてるかどうか。そのぐらいはしてます。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。永沼課長お願いします。

○事務局（永沼）　個人では私も何をしてるかということはなくて、火曜日と木曜日の燃えるゴミを出す役割が私なので、ゴミを持って行って会う人がいたら変わりないですかとあいさつをしています。それぐらいかなと思っています。社協の推進員を私が地区の中で請け負わせていただいて、４０軒受持ちなんですけど、名前と顔は大体分かっています。行き来するなかで何か状態などが変わっていれば、声はかけられるかなというところですね。所属のところでは、社協として地域のなかではもちろんですし、「ちいきみまもりたい」のところで、業務の中で気づけばというところで行っているところです。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。横山さんお願いします。

○事務局（横山）　私も家の周りに若い方が多かったりして、個人的に見守りしている感じではないんですけど、仕事柄、高齢者の方とたくさん会っているので、休みの日とかスーパーで見かけたりすると遠くから眺めて、変わりないかなとか、前と違ってないかなとか、買い物してる雰囲気を見たりしながら様子をうかがっているところです。

あと、高齢者の方を訪問して相談したりとか、様子を見てほしいと頼まれることがあるので、そういった地域の方を直接訪問して、実際に見守りというか、生活実態を把握しにいったりということをしています。また、仕事の移動中とか、通勤中もいろいろと周りを見ながら移動していたりというところがあります。

さるびあ館に普段いるんですけど、さるびあ館にいろいろな方が福祉関係の手続きに来ます。そのときに、違う部署の手続きでも何か異変があったら、手続きに来たときにこうだったよという話を内部で共有したりしながら、場合によってはちょっと声をかけたりすることもあります。もともと気にかかっていた人が来所したときには、受付に来たのを見かけたら声かけたり、そういったことをしています。あと、いきいき百歳体操や認知症カフェなど包括支援センターでやっている事業にいらっしゃっているところを、みんなで見守ったり、情報共有を内部でしているというところです。

○事務局（高橋）　皆さんから、たくさんの意見が出ました。個人でも見守り合いを実施されてると思いますし、所属する団体でも皆さんが見守りを実施

しているということで、現状について教えていただきました。ありがとうございました。

続いて、さきほど記入していただいた下の欄に、さきほど書いていただいたもの以外で、見守りの効果につながるかもしれない取組みについて書いていただきたいと思います。これも個人と所属する団体やお住まいの地域で書いていただければと思います。例として書いている生協の班宅配は、最近お話を聞かせていただいた方ですが、３人ぐらいのグループで生協の班宅配を週１回利用しているということで、毎週火曜日に生協が届けに来るので顔を必ず合わせる。顔を合わせたついでに、お茶飲みしているんだというお話を聞いて、それも一つの見守りの効果があるんじゃないかなというふうに思い例として書きました。そういった見守りをしようと思ってしているわけではないけれど、実際は見守りにつながってるというものだったりを書いていただきたいなと思います。先ほども地域行事を通しての交流も見守りの一つになっているという話題になりましたが、記載をしていただきたいなと思います。また５分程時間を取りたいと思います。

【５分間の記入時間】

○事務局（高橋）　それでは、小野委員からお願いします。
○小野祐委員　個人的にできることというのは、気にかけるということなのかなと思うんです。何か行動するとかというよりは、気にかけるということが大事なのかなと。小野会長がおっしゃるように、３人ぐらいであれば、全然無理もなく気にかけたりできるのかなと思うので、そういった人たちが増えてくれば､見守り合いというところにもつながっていくのかなと思いました。

あとは、地域については、やはり情報ですかね。情報の共有は良いか悪いか別にしても、その中からちょっと変化があれば「ちょっと変わったよね」といったような変化にも気づけるようになっていくのかなと思うので、やっぱり情報を共有するということは大切なのかなと改めて感じました。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。庄子委員、お願いします。
○庄子委員　個人的には車で通勤してるので、通勤中にちょっと気にかけたいなというのと、帰りが大体夜なので、電気がついてたりついていなかったりというのができるのかなというのがありました。

団体の関係なんですけれども、直接一般住民の方と接する機会がほとんどなくて、どうしても商工会会員様からの間接的な情報にとどまっているんですけれども、そういった情報を共有するというのもあるかもしれないです。ただ、もらった情報が、例えばどこそこの人といわれても、こちら側が全然分からないということがあるので、そこがちょっと難点かなというのがあります。
○事務局（高橋）　その後のつなぎが難しいということですね。
○庄子委員　会員さんはその住民の人は知ってるけど、こちらは住民の人との

接点がないので、全く分からないっていうのはありますね。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。柴垣委員お願いします。
○柴垣委員　個人的には今までどおり、ある程度、隣家に目はつけてるほうかなとは思いますので、その程度なのかなと思ってます。団体等の見守りに関しては、今までどおりの形かなと思います。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。渡邊委員お願いします。
○渡邊副会長　私も気にかけるということが、当たり前のことなんですけど、近くのどんな人にもあいさつするとか、見たことない人にもあいさつするということが、防犯になるのかなと思います。
　さっき話にあったように、回覧板を直接渡すというのは、すごく効果的かなとも思います。例えば、直接渡すためには、この方は夜勤だから日中に行かなきゃないとか、この人は早く寝るからちょっと日中や朝早くみたいに、ちょっとしたことが気にかけあう一歩につながるのかなというふうに感じました。
　団体としてということなんですけども、やはり今取り組んでいる「いきいき百歳体操」だったり、そういう小さい単位での集まりを提供することが、団体としてはできることなのかなと思いました。
○事務局（高橋）　ありがとうございます。小野会長お願いします。
○小野俊会長　これからやっていかなくちゃいけないと思うのは、こっちで見守るというのもそうですけども、見守られている人たちが、見守っている人に気軽に声をかけてくれる、何でも打ち明けてくれる「自分はこういうことで困ってんだけども、ちょっと何とかしてくれないか」とか、そういう人間関係の構築というのが、普段の付き合いの中で生まれてくると、なおいいんじゃないかと思います。こっちから見守るだけじゃなくて、その人たちが相談してくれるような、そういうような環境や人間関係を作っていけると良いです。見守るだけだとちょっと分からない部分があります。
　うちの地域にも、二人暮らしの女の人から「家庭内暴力があって」という悩みを打ち明けてくれたことがありました。近くに住んでいても言われないと分からないことがあります。見守っている側からだと見えない部分があるので、そういう人間関係を今後作っていかなくちゃいけないかなと思ってます。
○事務局（高橋）　関係性も大事ですよね。ありがとうございます。佐々木委員お願いします。
○佐々木委員　コロナ前は「にっこり会」という会を運営していました。１８人ぐらいの人が登録していて､ひとり暮らしもいれば二人暮らしもいました。月に１回集まって、次は何をすると決めて活動してました。それも見守りにつながってるのかなと思います。あとは、その人たちの情報をまた吸い上げる。高齢者のことであれば、もともと仕事は介護関係なので対応の仕方が早い。そのなかで相談されれば、すぐいろんなところにお話ができる。そういう活動をしていましたが、コロナで自粛しています。今年の一時期、すこし

コロナが収まったので、４月のお花見を外でやるんだったらいいだろうということで集まったんですよ。２年ぶりで集まったのかな。そしたら、かなり皆さんの状態が低下していました。ようやく杖をついてきた人もいます。２年間、会で見守りできなかったんですね。逆に言うと、そういうことをきちんとやっていけば、見守りになるのかなと思います。

コロナも収まってきたので、週１回好きなときに来ていいよというふうにしたんですが、どうも来れない様子で、こういうのをやるから来てくださいって言わないと集まらないみたいです。だから、月１回、今後はそういうイベントを企画して、参加者を募ってやるような形をしようかなと思っています。だから、地域でもお茶飲み会の一つとして捉えてもらってると思うので、そういうのも見守りにつながってくるのかなという考えです。

○事務局（高橋）　そうですね。このコロナの影響は、本当に大きいなと、佐々木委員のお話を聞いて思いました。顔を合わせる機会が減ってしまうことで、見守りする機会も減ってしまうということなんですよね。ありがとうございます。それでは、角田委員お願いします。

○角田委員　コロナの影響を一番受けたのは、地域でやるお茶飲み会ではなくて、隣近所の仲良しな同世代の女性たちのお茶飲みがずっと続いていたんですけど、それが途絶えてしまったっていうのが残念なんです。自然発生的にどこかで何か所かでお茶のみをやっていて、私も行くと誘われて一緒にお茶飲みをしてきてたんですけど、それが途絶えてしまいました。「私の作ったものをどうぞ」とおすそわけするのも遠慮になってしまいました。

あとは、男性に聞きたいんですけど、７０歳くらいになると、男性がリタイアして自宅にいるんです。それまでは、奥さんたちはよく集まって、それぞれの家に行って雑談しながらお茶飲みしてたんですけど、お互いに旦那さんがいるから、もう行けないんですよ。やはり旦那さんのいるところには行くのが遠慮になってしまって、ものすごく回数が減りました。

男性とはどのように関わったらいいのかと考えています。いろいろな行事にも、男性の参加が少ない状況です。

○柴垣委員　女性が話しているところには、男性は入りづらいんじゃないでしょうか。

○角田委員　地域行事の参加者を増やす活動が大事だという意見が地域でもあがってるんですけど、男性の参加が少ないというのと、集まりについても運動好きな人も手作業好きな人も何もできないという人もいます。新しいことはしたくないという人もいるので、自由に、そこに行くとちょっとした時間を過ごせるよという形の地域活動もあってもいいんじゃないかなと思います。最初から目的があれば来るっていう人もいるでしょうけど、そういうのも嫌だという人もいるので。

○小野俊会長　野球は、今度野球の試合あるよと言えば、ちむどんどんするでしょう。麻雀の愛好会も今週は麻雀の時間あるなっていうと、もうわくわくしている。だからそういう、いわゆる趣味の会とかは大事だなと思います。

自分もカラオケ愛好会を作って活動していました。グラウンドゴルフは、新たに今やってるんだけれども、うちの地域は女の人たちがあまり活発じゃない。男性が１２人ぐらいいて、女の人が１人だけ入っています。

○柴垣委員　さっき小野委員が言ったように、私も４夫婦でグループ作って旅行なんかしたりしていました。なかなか旅行ができないので、月に１回ぐらい自宅に集まって、８人で飲みながら話しています。ただ、女性だけのグループの中に男性が入っていくのは難しいです。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。女性の求める交流の場と、男性の求める交流の場が一緒っていうのは難しいのかもしれないですね。

しかも、女性の中でも何か目的があって集まるのがいい人と、ゆるく集まってお茶飲みするのがいいという人もいるので、やっぱり人それぞれ違うんですよね。そういう地域の中に、選んで参加できるような機会があるといいですね。志賀町が集会所をよく活用されていて、麻雀だったり太極拳だったりダンスだったり、いろいろ集会所で毎週開いてるような感じで活動をしているので、理想的だなと思っていたところです。誰かが声を上げて、こういうことをやろうとなって自然にできてきたのもあって、長く活動が続いてるのもそういう点からなのかなと思っておりました。

○事務局（永沼）　見守りってどんなことかなと考えましたが、さっきの皆さんの話を聞いたときに、自分のアンテナに引っかかった人を気にかけてるんだなと思ったんですよ。

そもそも近所の人に関心を持っていなかったら、そのアンテナすら出ないんだろうなって思ったんですよ。皆さん方は意識ある方々なので、そのアンテナを多分いっぱい持ってて「あ、この人、気になったな、だから気にかけようかな、じゃあ電気がついてるかな、消えてるかな。」となっていくのかなと思いました。

そもそも根っこの部分は、辺りのことに少し関心を持っていないと、前の家の人をちょっと気にかけなきゃいけないかな、という気持ちすら湧かないのではないかと思います。そういう関心を伸ばしていけるような、育んでいけるような取組みが必要なのかなと思いました。

○事務局（高橋）　ありがとうございます。今日の話し合いで出た内容などを、ぜひ持ち帰っていただいて、皆さんのお住まいの地域だったり所属してる団体の中でも、ぜひ考えてもらう機会にしていただきたいなと思います。

さきほど書いたシートの裏面を見ていただければと思います。これまで、たくさん見守りについて協議を重ねてきました。その中で見えてきた現状と課題を、私のほうでまとめさせていただきました。

先ほど出た話題と重なる部分もたくさんあると思いますが、支え合いによる見守りの強みと弱みというところで、さり気ない見守りができてる半面、弱みのところでは、さり気ない見守りが難しいといったところだったりします。隣近所からの情報などを通して、間接的な見守りも行われていたりします。先ほども話題になりましたけど、仕事や趣味のつながりが見守りになっ

ていたり、気にかけ合う関係の中で困りごとに気づいて、できる範囲でお手伝いしたりということも行われているというところで、ここも本当に見守りの強みだなというふうに感じております。

弱みのところも出ておりますが、どこに相談したらいいかが分からないということだったり、担い手がなかなか見つからない、担い手が不足しているという御意見も以前いただいたかなと思います。あと、近所付き合いですね。拒否する人をどう見守ったらいいか分からないという御意見もいただきました。これを踏まえて、これまでの協議から見えてきた課題を、大きく４つ上げさせていただきました。

まず、一つ目が、見守りをしていて気づいた課題だったり悩みを地域で共有する場がないことが課題なのかなというところです。二つ目は、理解者が増えるような働きかけが少ないのかなというところです。三つめは、見守りの役割や捉え方などの認識が人それぞれ違うのではないかというところです。見守りの協力者の方々は意識が高くなってきてるような感覚があります。

対象者のほうはどうかなというと、隣近所の方に入院することになったことを言わないで行ってしまって、周りが「あの人いなくなった」と心配するなんていう話も結構聞きます。

最後は、感染症の影響でなかなか地域で顔を合わせる機会が減ってしまったことで、これまでさり気なくできていた見守りの部分が、できなくなってきているということも大きな課題なのかなと思っております。

次回の協議会のところでは、この４つの課題解決に向けて、今後必要なことは何かというところを話し合っていきたいと思っております。今日の協議事項はここまでとさせていただきたいと思います。

その他のところで皆さんから何かお話などはありませんでしょうか。

（なしの声）

今日欠席の小川委員から情報提供ということで、こちらのお手元にあるチラシ「みさとっこマーケット」についてお伝えします。小川委員が「みさとっこマーケット」の実行委員をされているということで、１０月９日の日曜日に駅東地域交流センターを会場に開催するということなので、皆さんも、ぜひお時間あるときは来場してみてはいかがでしょうか。それでは、閉会のあいさつを渡邊副会長さんお願いします。

○渡邊副会長　今日も貴重な御協議いただきありがとうございました。開会のあいさつにありましたように、「ちむどんどん」という生活ができるように、これからもよろしくお願いしたいと思います。お疲れさまでした。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和　　年　　月　　日

委　員　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

委　員　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿